年間授業計画 様式例

東大和南 高等学校 令和8年度（3学年用）教科　家庭　科目 保育基礎

教　科：家庭　科　目：保育基礎　単位数：2　単位

対象学年組：第 3 学年　選択者

教科担当者：上小牧千絵

使用教科書：（ 家庭707　保育基礎（実教出版）　）

教科　家庭　の目標：

【知識及び技能】生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ共同的に取り組む態度を養う。

科目　保育基礎　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
保育に関する基礎的･基本的な技術を総合的に身につけている。子どもの発達の特性，生活と保育に関する知識を総合的に身につけている。	子どもの発達や保育に関わる現状について理解を深めた上で課題を見つけ，その解決をめざして思考を深め，適切に判断し，工夫し創造する能力を身につけている。	子どもの発達や保育への関心を持ち，意欲的に学習に取り組み，子どもの健やかな発達や保育に寄与していこうとする実践的な態度を身につけている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	1章　子どもの保育 ・保育の意義と重要性について保育が人間形成にどのようにかかわるかを考える。 ・保育者にはどのような資質が求められるか、どのように見つけたらよいかなど保育者観についての考察を深める。 ・家庭での保育の現状や，幼児教育・保育の場の保育環境の特徴や役割を理解する。 ・子どもを取り巻く社会環境の変化や今後の保育の課題について理解し，子どもの健やかな発達のために適切な保育環境について考察する。	1　保育の意義 2　保育の方法 3　保育の環境	【知識・技能】 ・乳幼児期は心やからだの基礎を築く大切な時期であることを十分に理解している。 ・保育者に求められる役割や関わり方のポイントを十分理解している。 ・子どもや家庭をとりまく保育環境やその課題について十分理解している。 【思考・判断・表現】 子どもがどういったことを身につけていくかなど，乳幼児期の体験の重要性に気づくことができる。 ・保育者としての子どもとの適切な関わり方について考察することができる。 ・保育環境やその課題について，社会的背景などと関連づけて考察することができる。	○	○		6
	2章　子どもの発達 ・乳幼児期は人の発育、発達において大切な時期であり，共通性や個別性といった特性があることを理解する。 ・乳幼児期の身体的特徴と生理的特徴をとらえ，新生児期～乳幼児期へと続く人の発達の過程を理解する。 ・心の発達の土台として大切な愛着関係の形成過程について学び，親子関係の形成と人間関係のひろがりについて考える。 ・知的発達，言葉の発達，社会性・情緒など様々な側面から，子どもの心の発達をとらえる。	1　子どもの発達の特性 2　子どものからだの発達 3　子どもの心の発達	【知識・技能】 ・子どもの発達は，運動や感覚，心の発達などが関連し合っており，その特性について十分理解している。 ・子どもの身体の発達過程や生理的特徴について十分理解している。 ・乳幼児期の愛着関係の形成は人の発達にとってとても重要であることを十分理解している。 【思考・判断・表現】 ・愛着関係形成のための大人の適切な関わり方について考察ができている。	○	○		15
	子どもとかかわってみよう（保育実習） ・実際に子どもと触れあう機会や保育の様子の観察などを通じて，子どものものの見方や感じ方，子どもとの適切な関わり方など，保育への理解を深める。	子どもとかかわってみよう（保育実習）	【知識・技能】【思考・判断・表現】 ・保育実習において安全に配慮し，子どもと適切にかかわったり観察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・実習に積極的に取り組んでいる。 ・保育実習の記録をまとめ，成果を発表することができる。	○	○	○	2
	定期考査			○	○	○	1

2学期	第3章　子どもの生活 ・子どもが心身の健康を保つための保育の技術を身につける。 ・乳幼児期の栄養や食事の特徴を実習を通して理解しする。 ・子どもの衣生活と育児用品について，身体特徴をふまえ，安全で快適に生活するために何が必要か選択できる。 ・基本的生活習慣と社会的生活習慣の意義と重要性を理解し，子どもの発達に即した適切な生活習慣とその援助について考察する。 ・子どもの健康管理や事故防止について，健康状態の観察のポイントや予防接種，事故の実態や原因などを理解する。 ・子どもの事故防止や安全な環境整備にはどのような配慮や準備が必要か具体的事例とあわせて理解する。	1　子どもの生活と養護 2　生活習慣の形成 3　健康管理と事故防止	【知識・技能】 ・子どもの安全で健康的な食生活，衣生活に関する知識や技術を身につけている。 ・基本的生活習慣と社会的生活習慣の形成のための適切な支援について十分理解している。 ・子どもの健康管理と事故防止に対する基礎的な知識を身につけている。 【思考・判断・表現】 ・子どもの食生活や衣生活などの特徴についてまとめることができる。 ・子どもが生活習慣を身につけるための援助の方法を考察することができる。 ・子どもの健康管理と事故についてその予防策や注意点などを考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・離乳食や幼児食，おむつ交換などの実習について子どもの発達の状況などと関連づけて考え実践することができる。 ・子どもの事故の実態や原因を踏まえて事故防止や安全教育に結びつけて実践しようとしている。	○	○	○	24
	第４章　子どもの文化 ・絵本や遊び，歌などの児童文化財や児童館などの子どもの文化を支える場が，子どもの健やかな発達とどのような関わりを持つか，その意義について理解する。・子どもの遊びと遊具や表現活動の意義や重要性などを，具体的に遊具等を作るなどの活動を通じて理解する。 ・遊びにおける保育者からの働きかけを考え，遊びの援助ができるようにする。	1　子どもの文化の意義と支える場 2　子どもの遊びと表現活動	【知識・技能】 ・児童文化活動，児童文化財，児童文化施設など子どもの文化を支える場やその意義について十分理解している。 ・遊びの意義や発達との関わり，遊具の選び方などについて十分理解している。 【思考・判断・表現】 ・自分の子どものころの遊びの振り返りについて，周りの人と話し合いながら遊びへの理解を深めている。 ・子どもの遊び実習に向けて，必要な準備や関わり方の工夫などについて考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・子どもの遊び実習（絵本や歌など）について，子どもの年齢や発達に応じた遊び方や工夫を主体的に考えて実践することができる。	○	○	○	8
	子どもとかかわってみよう（保育実習） ・実際に子どもと触れあう機会や保育の様子の観察などを通じて，子どものものの見方や感じ方，子どもとの適切な関わり方など，保育への理解を深める。	子どもとかかわってみよう（保育実習）	【知識・技能】【思考・判断・表現】 ・保育実習において安全に配慮し，子どもと適切にかかわったり観察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・実習に積極的に取り組んでいる。 ・保育実習の記録をまとめ，成果を発表することができる。	○	○	○	2
3学期	５章　子どもの福祉 ・子ども観は国や地域，時代によって変化していることを理解する。 ・時代の変化と共に子どもが権利の主体として尊重する考え方が世界で共有されつつあることを理解する。 ・子どもの福祉に関心を持ち，児童福祉の理念や法律と制度について理解する。 ・児童憲章や児童の権利に関する条約を通して児童福祉の基本的な考え方を理解し，子どもの幸せとは何かを考える。 ・子どもを地域や社会で支える子育て支援の具体的な場や制度について理解する。また，子育て支援の今後の課題と展望について考察する。	1　子ども館 2　子どもの福祉 3　子育て支援	【知識・技能】 ・児童館の変遷について，社会的背景や西欧と日本の比較などを通じて十分理解している。 ・児童憲章や子どもの権利条約など児童福祉の基本的な考え方について十分理解している。 ・子どもの福祉を支える公的機関や施設の役割について十分理解している。 【思考・判断・表現】 ・子どもの福祉の課題を見つけ，その解決に向けて考察することができる。 ・児童虐待の現状や課題について自分の考えをまとめることができる。	○	○		12 合計 70